



CONN コマンド

この章では、Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-MA、および ONS 15600 の connect (CONN) コマンドについて説明します。

7.1 CONN-TACC-<MOD_TACC>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-MA、ONS 15600) DS1、STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS3C、STS48C、STS6C、STS9C、T1、T3、VT1、または VT2 の Connect Test Access (CONN-TACC-<MOD_TACC>) コマンドは、アクセス ID (AID) によって定義された Synchronous Transport Signal (STS; 同期転送信号) または Virtual Tributary (VT; 仮想トリビュタリ) を、Test Access Point (TAP; テストアクセスポイント) 番号によって指定された STS に接続します。

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。TACC の詳細については、『[Cisco ONS SONET TL1 Reference Guide](#)』を参照してください。

使用上のガイドライン



注意

このコマンドを適用するには、最初に ED-<MOD_PATH> コマンドを使用して TAP を作成する必要があります。侵入型テストアクセスモードはトラフィックに影響を与えます。ファシリティ/パスが侵入型テストアクセスモードで TAP に接続されると、強制的に Out of Service, Maintenance (OOS-MT) ステートになります。強制的な移行はトラフィックに影響を与える可能性があります。ファシリティ/パスの現在のステートは Network Element (NE; ネットワーク要素) によって保存され、TAP 接続がダウンすると復元されます。TL1 セッションが終了するかまたはタイムアウトになると、テストアクセス接続は自動的にドロップされます。



(注)

- すべての TAP がビジーの場合は、RABY エラー メッセージが返されます。
- 要求された TAP がビジーの場合は、RTBY エラー メッセージが返されます。
- 要求された TAP が存在しない場合は、RTEN エラー メッセージが返されます。
- 回線がすでに別の TAP に接続されている場合は、SCAT エラー メッセージが返されます。
- 要求された条件がすでに存在する場合は、SRCN エラー メッセージが返されます。
- AID が無効の場合、IIAC (Input, Invalid Access Identifier) エラー メッセージが返されます。
- アクセスがサポートされない場合、EANS エラー メッセージが返されます。
- 要求されたアクセス設定が無効な場合は、SRAC エラー メッセージが返されます。
- すべてのアクセス モードがサポートされる場合は、クロスコネクトへの接続が確立できます。非マップ AID (クロスコネクトがない AID) では、MONE、SPLTE、および LOOPE モードだけ使用できます。
- 1+1、1:1、または 1:N の保護方式の保護パスへの接続は許可されませんが、2 ファイバまたは 4 ファイバ Bidirectional Line Switched Ring (BLSR; 双方向ライン スイッチ型リング) の Protection Channel Access (PCA; 保護チャンネル アクセス) パスへの接続はサポートされます。これは、BLSR の切り替えが発生するとプリエンプション処理されます。
- TACC を保護 Unidirectional Path Switched Ring (UPSR; 単方向パス スイッチ型リング) トランクに接続すると、保護トランクではなく常に現用トランクに接続されます。
- STS36C は、このリリースではサポートされていません。
- TACC を、ロール保留状態のクロスコネクトに接続することはできません。

カテゴリ

トラブルシューティングおよびテスト アクセス

セキュリティ

メンテナンス

入力形式

CONN-TACC-<MOD_TACC>:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>::<TAP>:MD=<MD>;

入力例

CONN-TACC-ST1:CISCO:STS-2-1-4:123::8:MD=MONE;

入力パラメータ

<SRC>	送信元 AID ([25.1 ALL] [p.25-2] を参照)。SRC はヌルにできません。
<TAP>	テスト アクセス ポイント番号。TAP 番号を使用して、アクセス ポイントが解放されるまで TSC および NE 間のすべてのメッセージを識別します。TAP 番号には、1 ~ 999 の整数を指定する必要があります。TAP はヌルにできません。
<MD>	テスト アクセス モード (SPLTE、SPLTF、LOOPE および LOOPF には、外部 Quasi-Random Signal [QRS] 入力信号が必要です)。単一の Facility Access Digroup (FAD) テスト アクセスは、MONEF、SPLTEF および SPLTAB モードをサポートしません。MD はヌルにできません。 パラメータ タイプはテスト アクセス モード (TACC_MODE) です。
• LOOPE	A パスと B パスの両方を分割します。E 方向から着信する回線を、E 方向に発信する回線に接続し、このループ設定を FAD に接続します。F 方向に発信する回線には、QRS が接続され、F 方向から着信する回線は、回線の公称特性インピーダンスで終端します。侵入型テストアクセスモードです。

• LOOPF	A パスと B パスの両方を分割します。F 方向から着信する回線を、F 方向に発信する回線に接続し、このループ設定を FAD に接続します。E 方向に発信する回線には、QRS が接続され、E 方向から着信する回線は、回線の公称特性インピーダンスで終端します。侵入型テストアクセスモードです。
• MONE	アクセスされる回線の FAD から A 伝送パスにモニタ接続が提供されることを示します。
• MONEF	アクセスされる回線のデュアル FAD (DFAD) に対する FAD1 (Facility Access Path [FAP; ファシリティ アクセス パス] の奇数のペア) から A 伝送パス、および同じ DFAD の FAD2 (FAP の偶数ペア) から B 伝送パスにモニタ接続が提供されることを示します。
• MONF	アクセスされる回線の FAD から B 伝送パスにモニタ接続が提供されることを示します。
• SPLTA	テスト中の回線の A 伝送パスの E と F の両方の側から FAD に接続が提供され、A 伝送パスが分割されます。侵入型テストアクセスモードです。
• SPLTB	テスト中の回線の B 伝送パスの E と F の両方の側から FAD に接続が提供され、B 伝送パスが分割されます。侵入型テストアクセスモードです。
• SPLTE	A と B の両方のパスを分割し、アクセスされる回線の E 側を FAD に接続します。F 方向に発信する回線には QRS が接続され、F 方向から着信する回線には QRS が接続され、E 方向から着信する回線は、回線の公称特性インピーダンスで終端します。侵入型テストアクセスモードです。
• SPLTEF	A と B の両方のパスを分割し、アクセスされる回線の E 側を FAD 1 に、F 側を FAD2 に接続します。侵入型テストアクセスモードです。
• SPLTF	A と B の両方のパスを分割し、アクセスされる回線の F 側を FAD に接続します。E 方向に発信する回線には QRS が接続され、E 方向に着信する回線にも、QRS が接続されます。E 方向から着信する回線は、回線の公称特性インピーダンスで終端します。侵入型テストアクセスモードです。

出力形式

```
SID DATE TIME
M CTAG COMPLD
<<TAP>>
;
```

出力例

```
TID-000 1998-06-20 14:30:00
M 001 COMPLD
"8"
;
```

出力パラメータ

<TAP>	テストアクセスポイント番号。TAP 番号を使用して、アクセスポイントが解放されるまで TSC および NE 間のすべてのメッセージを識別します。TAP 番号には、1 ~ 999 の整数を指定する必要があります。
-------	---

■ 7.1 CONN-TACC-<MOD_TACC>